

# 技術士だより

—(社)日本技術士会九州支部・九州地方技術士センター 冬季号<第10号> (平成3年12月15日発行)

## ◇巻頭言

### 各県にプロジェクトチーム設立を

青山 次貝リ (副支部長・建設部門)

早いもので今年もいよいよ残り少なく半月となりました。支部会員のご協力により支部の事業も滞りなく運営されております。厚く御礼と感謝申し上げます。

ご承知のように本年は世界的に激動のときで、中東湾岸戦争、ソ連の社会主義体制崩壊、共和国の独立、冷戦後の新しい世界平和秩序構築へと大きく動いております。国内においても11月5日、宮沢新政権が誕生したから政治改革関連三法案・国連平和維持活動協力法案・コメ市場解放等政治社会経済問題でこれから解決すべき課題が山積しております。

さて私達技術士が活動しております社団法人日本技術士会(以下会という)が創立40周年の記念すべき年を迎えました。誠に喜ばしいことで、この大きい節目を機会にこの会が益々発展拡充され、会員の増強と活性化が行われることを期待する一人であります。

最近の会報誌には毎月のように技術士法に対する改正意見・会や技術士の在り方についての提言・会運営についての提案等活発な論議が掲載されております。このことは技術士業務の開発・活性化につながることで喜ばしいことでありますが、内容を見ますと会創設以来繰り返し論じられてきた問題、あるいは早急に再検討すべき意見も多くみられます。このことについては本部に特別委員会を設置して専門的に審議し早急解決して頂きたいと要望します。私か九州支部会員にお願いしたいことは身近な可能な問題から解決してゆくことではないかと思ひます。その第一歩が技術士業務の開発とその組織づくりです。そのため九州各県単位に日本技術士会プロジェクトチームの設立を提言いたします。

ここで参考のため熊本県技術士会が設立した熊本技術センターの設立の主旨と特徴について説明いたします。高度経済成長時代が終焉し、社会の成熟化が進むにつれて人々の価値観は多様化し、社会構造の高齢化・情報化が進む中で未知なる新しい社会環境をつくる、いわゆる「これからの新しい地域づくり」は、これまでのような全国画一化されたものでなく、地域の個性や独創性を生かし、自助自立の精神によって地域自らの手で築いていくことが強く求められています。熊本地域でもテクノポリスを核として、地域社会・生活の共通基盤の整備と地域産業・経済の共通基盤整備を中心に幅広い施策が進められています。しかしながら、これからの地域づくりを考えると従来までの行政主導でなく、市民あるいは企業自らが立ち上がり、自立精神で自助努力を行い住民・中小企業主導型の地域づくり・地域産業づくりへの流れが必要と思ひます。

このような地域社会の動きに迅速的確に対応するため、県内に居住する技術士が相集い、市民として技術者として自らの知識の向上や、新技術の開発を行う一方でその豊富な経験と蓄積した知識と専門技術を集合・総合化して(社)日本技術士会の全国的情報ネットワークを生かし、行政・公的機関と企業や市民のコーディネーターとして地域産業の育成・確立に組織や行政区域を超えた提言・提案を行い、これからの新しい地域づくりに寄与したいと考え地域シンクタンク・コンサルタントグループの熊本技術センターを結成しました。

センター設立から日が浅く、3年ばかりなので事業の実績は充分ではありませんが主なものは次のとおりです。受託業務9件のうち、県から2件(水道資源開発調査、熊本港ターミナルビルおよび周辺整備基本設計)、民間から7件(リゾート開発計画環境アセスメント等)、助成研究2件(九州国際空港と九州経済圏づくり、熊本都市圏渋滞に関する研究)、技術情報出版(創刊号～第6号)、市民シンポジウム開催3回(第1回集中豪雨と都市型水害、第2回ウォーターフロントとまちづくり、第3回7・2水害を考える)、自主研究3件(江津湖流量調査、白川水系における植林と防災に関する件、火山灰の利用に関する件)等ありますが<以下次ページに>

# 1人でも多くの入会をお勧め下さい

<前ページよりつづく> 今後増加の傾向にあります。

ご承知のようにこのプロジェクトチームには次のような特徴があります。

- (1) 技術士の専門分野は18部門あり、顧客のウォンツに応じて最も適したチーム編成して対応ができる。支援、補完体制として日本技術士会の全国組織がある。
- (2) 公益法人であるので営利を目的としない。より経済的であり、民間のコンサルタントに比べより中立性が保持できる。技術士法に基づく守秘義務を第1要件に課せられている。
- (3) 地域在住の者であるので、地域の特性を生かすことができる。
- (4) 日本技術士会という全国ネットワークが利用できるので、情報収集力の強さおよび情報の新鮮さ、高度さがある。

以上の特徴とメリットがありますので、充分ご検討の上各県の実情にあったプロジェクトチームを設立されることを提言いたします。

## 私の提言「答えは簡単」－組織強化と会員増強

笠木 直行 (建設部門)

技術士第2次試験の合格者は全国で約4万名、そのうち2万3千名が技術士登録をして、それぞれの専門分野で活躍しているが、日本技術士会会員はわずかに4千名程度である。入会率は18%の低調さである。

会創設以来くりかえし論じられてきた技術士法の改正、つまり資格法から職業法へという問題も一向に進展せず、会員は微増している程度で組織強化にはほど遠い状況である。

支部役員をされた先輩技術士の皆様に伺っても、会の活動のテーマは常に会員増強であり、会の活性化、魅力ある技術士会とするにはどうするかであった。入会しない人の意見は必ずと言っていいほど会費が高い、メリットがないである。

松本健二氏は、機関誌「技術士」で次のように述べている。

技術士会はメリットがない、会費が高いと思っている会員もかなり多く、せっかく入会したのに脱会する人がいるのも事実である。その人達は、技術士会の利用の仕方をよく知らないのではないかと述べて、技術士会入会のメリットとして次の4つをあげている。

- ①異業種部門の技術士との交流が得られる。支部に属していれば支部会に出席できるので、異業種部門の会員との交流の場になる。本部に属していれば、プロジェクトチームに入り異業種部門の会員との交友ができる。

②技術士会の会員名簿に名前が掲載される。会員名簿に自分の名前と専門事項と事務所の住所が記載されていることは、それだけでも入会した価値がある。

名簿には3千8百名の技術士が掲載されている。「名簿の何ページの〇〇部門の××技術士ですが」と言えば、それだけの信用で大抵の場合は一面識もない技術士とでも話ができる筈である。

③身分証明書とバッジがもらえる。

技術士会の証明書は身分証明書を出せと云われた場合、警察でも役所でも銀行でも証明書として利用できる。

④先端技術情報が入手できる。

機関誌「技術士」や、企業内技術士委員会の技術研究発表によって、先端技術情報を入手することができる。

技術士会の会合にも出ず、機関誌も読まないで、全く消極的な会員では、技術士会のメリットは会費に比べて小さいものになってしまう。技術士会を積極的に利用すれば、十分会費以上のメリットが得られるものと思う。

堀泰明氏は次のように云う。技術士法は高度の目的をうたっており、これは弁護士法、医師法に遜色がない。弁理士、税理士が法の下で代理業と規定され <次ページに続く>



＜私の提言つづき＞ ているよりも高い位置づけがなされている。…… 公認会計士の場合、技術士の業務に近いものがある。……

公認会計士はもとより、弁護士、弁理士、税理士の何れをとっても業務登録のためには団体への加入が義務づけられている。技術士にあっても登録即入会の措置は業務法として当然である、と述べている。

身近な業務法として、法務省所管の土地家屋調査士法がある。これも晴れて一人前の調査士として認められるためには、次のような登録手続きをふむ必要があるのである。すなわち、土地家屋調査士に合格しても登録するまでには、その人は単に「土地家屋調査士なる資格を有する者」にすぎない。

まず、合格者は各都道府県にあるそれぞれの土地家屋調査士会を通じて、全国の総元締めである日本土地家屋調査士会に登録の申請

することになる。

調査士として登録しようとする人は、登録の申請と同時に調査士会の入会手続きをとり、各支部の一員にならなければならないのである。

前号で、水上副支部長が述べているように「登録即入会」の法改正が望ましいが、暫定的にでも総理府令または科学技術庁告示によって「技術士は日本技術士会の会員とする」を実現すれば、答えは簡単。会員2万5千名は苦もなく達成され、組織強化、財政基盤の確立も一挙に解決し、魅力ある、活力に満ちた技術士会になるであろう。

あのむつかしい試験を通過した技術士集団が多少勝手の違う法律のこととはいえ、力を結集して40年間の議論にそろそろ終止符を打ちたいものである。

＜私の提言 おわり＞

## ㊦ 日本技術士会近況

☆ 創立40周年記念・第18回技術士全国大会  
「科学技術が地球を救う」を大会テーマにした創立40周年記念・第18回技術士全国大会が11月29日、東京都新宿区の京王プラザホテルにおいて、全国各地から403人の参加者を得て盛大に開催された。なお、九州支部からも18人の参加があった。（関連記事後出）

### ☆ 本部理事会報告

平成3年度第4回理事会が、11月14日(木) 12:30～16:00、日本技術士会会議室にて開催された。（以下重要な議事・報告のみ）

(1) 「渉外委員会(仮称)」(常設委員会)  
設置提案についての審議は、先の第3回理事会において提案があり審議の結果、現存する常設委員会と内容の重なる事項を整合させる必要があるとの判断で、各常設委員会で審議検討の結果、今理事会に再度審議することになり、専務理事より設置することの是非の報告がなされ、各常設委員会の意見を集約すると、設置反対を唱える意見が多かったとの報告を受けたが、本席代表提案者が次席により、また、上田会長の会の渉外活動を積極的にとの行動指針を思い合わせ、再度持ち越し次回平成4年1月24日の理事会に再審議事項とした。

(2) 現存する(旧)日本技術士会内のプロジェクトチームに協力依頼について

業務委員会より次の諸点につき協力をお願いがあり、理事会において審議これを決定

① プロジェクトチームの現状把握にご協力頂きたき件(支部関係、CEクラブおよび熊本技術センター)

(2) 会の事務処理および会議室使用にご協力頂きたき件

イ. 会議室の使用については、試験事務、部会、理事会、支部長会議、部会長会議、各種委員会の順序で優先的に会議室の申込みを受け、余裕がある場合には使用日の1ヶ月前よりプロジェクトチームの申込みを受付けることにしたい。

ロ. 各種事務処理の支援については、金銭の受け払い、書類の発送は行わないしたい。返信ハガキの受取りおよび分類については従来通りとする。

(3) 技術士審議会において、次の2点につき審議採択し、これを科学技術庁に答申し諸手続きを経て、平成4年度技術士第2次試験に適用することに決まったとの報告があり理事会では了承した。

① 建設部門に「建設環境」を新設、  
＜次ページにつづく＞

＜本部近況 つづき＞

その選択科目の内容の表現は次の通り。

選択科目	選択科目の内容
建設環境	建設事業に係る自然環境及び生活環境の保全、創出並びに環境影響評価に関する事項

- ② 農業部門に「農村環境」を新設、その選択科目の内容の表現は次の通り。

選択科目	選択科目の内容
農村環境	農村に係る自然環境、農業生産環境及び生活環境の保全、創出、地域資源の多面的機能の利用、廃棄物等の還元利用並びに農村環境の予測及び評価に関する事項

(4) 本部各委員会委員の選考および委嘱に関することについて

- ① 常設委員会等17委員会での委員の総数 223名中、支部の会員1～2名では少なすぎるため、技術士会の運営に地方会員の意見が十分に反映されていないようである。
- ② 各委員の選考にあたり、各支部長等に意見を求めることが制度として行われていない。
- ③ 会の運営上重要な委員会における委員の選考および委嘱についても、理事会で規定を作成しておいた方がよい。

＜(社)日本技術士会近況 おわり＞

## 技術士会九州支部・九州地方技術士センター 行事・会合などの報告

### 1. 幹事会

日時：平成3年9月7日(土)15:00～16:00  
場所：博多第一ホテル 支部長他7名出席  
議事：

- (1) 九州支部細則第9条の一部改正
- (2) 今後の行事予定表
  - 9/21 第1,3部会開催 博多第一ホテル
  - 9/27～28 九州、中・四国支部共催研修会
  - 10/12 総務委員会 博多第一ホテル
  - 10/13 第一次試験支援 東和大学
  - 11/2 第2回常任幹事会博多第一ホテル
  - 11/9 中間会計監査 博多第一ホテル
  - 11/22 中部支部40周年大会
  - 11/29～30 全国大会
  - 12/3 会員研修および忘年会
  - 4年1/23～24 第4回合同セミナー 於大分市

### 2. 第2回常任幹事会

日時：平成3年11月2日(土)13:00～16:00  
場所：博多第一ホテル 支部長他12名出席  
議事：(1) 会員増強月間の設立について、

- (2) 賛助会員賛助広告募集月間の設立について
  - (3) 半期決算の状況について
  - (4) 編集委員会設置に伴う支部細則の変更について
  - (5) 忘年会と講演会について
  - (6) 第4回地方公共団体職員と技術士との合同セミナーについて
  - (7) 部会活動と支部行事との関連について
  - (8) 創立40周年記念第18回全国大会参加について
  - (9) その他事項
- 報告事項：
- (1) 平成3年度技術士二次、一次試験状況について
  - (2) 会員の動向について
  - (3) 部会の活動状況について
  - (4) 中・四国支部、九州支部共催の見学会講演会および合同例会について
  - (5) 島原、中国災害見舞いについて
  - (6) 本部理事会、支部長会の報告
  - (7) その他事項

＜支部・センター 行事報告 おわり＞



# 支部・センター委員会だより

## ◇ 郷系総務委員会(重富委員長)

☆ 平成3年10月12日、委員会を開催した。要旨は次の通りである。

### 1. 会員増強月間の決定

平成3年10月から平成4年3月末までを、会員増強月間とし、20%以上の加入者の増を目標とし、増強運動を展開する。

まず財政基盤の確立を先決事項とし、九州地方技術士センターへの加入を優先する。支部会員への加入は、現在技術士センター加入者を対象とし、各地区代表幹事より適宜加入を勧誘する。

### 2. 賛助会員、広告募集増強運動

過去の芳名簿を基に募集運動を展開する。

### 3. "技術士だより" 編集委員会のあり方について

現在、総務委員会で担当している"技術士だより"の編集を分離、独立した編集委員会としてはどうか、との提案がなされたが、組織の変更については、総会の議決を要することから、本年度は現状維持とし、平成4年度の総会に改めて提案し、審議をお願いすることになった。

以上の各事項については、常任幹事会にも報告事項として提出した。

過去6ケ年 支部およびセンター会員の推移

内訳	年次	S.60	61	62	63	H.元	2	3(9/30 駐)
支部会員		125	139	148	158	175	196	222
センター会員(正)		245	259	270	293	339	382	391
センター会員(準)		53	54	92	123	130	130	123

## ☆ 会計監査(中間)

平成3年11月9日、監事委員による中間会計監査を実施した。講評の概要は下記の通りである。

1. 金銭の出納については問題ない。  
会費の未納者については、再度督促する。

2. 事務局の運営についての、就業規則(案)を平成4年度から運用できるよう、立案されたい。

## ☆ 部会活動

### 1. 第2回部会長会議の開催

平成3年9月7日、各部会長から本年度の行事予定の説明があり、後日、各部会の役員間で打合せ調整を行うことにした。

### 2. 本年度の主要行事および見学会予定

#### (1) 第2、第4部会共催

福岡市中部下水処理場見学 (済み)  
平成3年9月13日、(会員20名参加)

#### (2) 第2、第4部会共催

福岡市西部下水処理場見学 (済み)  
平成3年10月2日、(会員18名参加)

#### (3) 第1～第6部会共催(第6部会計画)

見学先: 味の素冷凍食品(株)佐賀・諸富町  
工業技術院九州工業試験所-佐賀・鳥栖市  
見学日: 平成4年1月23日(木)

申込期限: 平成3年12月26日(木)、  
支部事務局まで。先着20名で締切り。  
申込者には後日、詳細内容連絡します。

(4) 第1、3、5、6各部会会議をそれぞれ福岡市並びに各地で開催、部会の今後活動方針について打合せを行った。

◇ 郷 試 験 委 員 会 (政野委員長)

☆ 平成3年度技術士第二次試験筆記試験および第一次筆記試験は、無事終了しました。受験状況を報告します。

1. 技術士第二次試験

8月21～22日の両日における、福岡会場（九大工学部）の受験状況は右表のとおりである。受験申込者数は昨年度の1,274名に対し、伸び率は12.6%であった。  
（試験監督に従事した技術士延べ34名）

月/日	受 験 者				受 験 率 B/A %
	技術部門	申込者A	午前 B	午後	
8/21	建 設	957	530	508	55.4
8/22	建設以外	477	319	315	66.9
計		1,434	849	823	59.2

2. 技術士第一次試験

10月13日、福岡会場（東和大学）における受験状況は、右表のとおりである。受験申込者数は昨年度の382名に対し、伸び率は17.3%であった。  
（試験監督に従事した技術士13名）

月/日	受 験 者				受 験 率 C/A %
	科 目	申込者A	午前 B	午後 C	
10/13	共通科目	69	39	36	B/A 56.5
	共通科目免除	379	—	260	68.6
計		448	39	296	66.1

3. 今後の予定

(1) 技術士第二次試験

10月31日 筆記試験合格者発表  
11月30日～12月15日 □頭試験  
平成4年1月31日 合格者発表

(2) 技術士第一次試験

12月20日 合格者発表

☆ 第4回九州地方公共団体職員と技術士の合同セミナーへ

日時：平成4年1月24日(金)13:00～20:00  
場所：大分市日室町9-20 大分東洋ホテル  
主催：(社)日本技術士会九州支部  
後援：大分県、大分市、大分県工業団体連合会

◎ 参加希望者は各地区代表幹事まで申出下さい。

◇ 郷 事 業 委 員 会 (笠木委員長)

☆ 平成3年度忘年パーティ並びに研修会  
日時：平成3年12月7日(土)13:30～19:30  
場所：リコホテル博多

54 福岡市中央区清川1-3-1

(1) 研修会 13:30～16:30

講師 鶴川 義明先生  
「河川情報システムについて」

同 安武 敏也先生  
「シルクロードを旅して」

同 佐土原 裕紀先生

(2) 忘年パーティ 16:50～19:30

◇ センター 受 験 対 策 委 員 会

(町田委員長)

1. 平成3年度第2次筆記試験合格者発表  
10月31日(福岡会場受験者) 145名

2. □頭試験受験対策講習会 (済み)

日時：11月16日(土) 9:00～17:00  
場所：福岡商工会議所 604,605号室  
＜次ページにつづく＞





＜委員会だより－受験対策委員会－つづき＞

- ・受講者 32名、講師 22名
- ・スケジュール
- 9:00～10:00 □頭脳試験一般対策
- 10:00～10:30 □頭脳試験質問事項のまとめ
- 10:30～12:00 体験発表（前年合格者）
- 12:00～13:00 昼食
- 13:00～17:00 模擬面接試験と講師指導

3. 平成4年度第二次試験受験対策講習会  
(予定)

- 第1回 4年4月18日(土) 福岡商工会議所
- 第2回 " 6月6日(土) "
- " 6月7日(日) 模擬試験 "
- 第3回 " 7月25日(土) "
- 頭脳試験 " 11月21日(土) "

＜支部・センター委員会だより－おわり＞

 行事レポート  ◇ 福岡市中部下水処理場 見学報告

平成3年9月13日実施（第2部会、第4部会合同）

第4部会長・福岡・水道部門 三原 節夫

1. まえがき

福岡市中部下水処理場は、福岡市の中心、西公園の北に位置し、昭和41年に処理開始をした九州で最初の本格的な標準活性汚泥法の下水処理場である。現在は約30万立方米/日（毎日大濠公園一杯に相当）の下水を処理し、処理水量としては九州最大の施設である。

2. 見学会の概要

見学会は日本上下水道コンサルタント協会九州支部の技術研修会と合同して行った。

10時に現地集合し、福岡市下水道局佐野局長の講演「九州の下水道事業について」に続き、平川場長より説明、案内を戴いた。午後から西部埋立地シーサイドももちに移動し、

博物館、福岡タワーを見学して、マリゾンホールで懇親会、18時過ぎに解散した。

出席者は両部会で36名であった。

3. あとがき

昭和41年に処理開始され、約25年間1日も欠かさず処理運転されてきた歴史と、関係者のご苦労が感じられる施設であった。また、天神地区他への下水処理水の再生水供給基地や、処理過程で発生するメタンガスによるガス発電機等の新しい技術や、博多湾の富栄養化に対する脱リンの研究など有意義な見学であった。

以上

 行事レポート  ◇ 福岡市西部下水処理場 見学報告

平成3年10月2日実施（第2部会、第4部会合同）

第4部会長・福岡・水道部門 三原 節夫

1. まえがき

去る9月13日の中部下水処理場見学会の際に、中部下水処理場と対象的な新しい西部下水処理場も見学してはとの意見があり、姪浜の北に位置し小戸埋立地の広大な敷地の中に建設され、本年より汚泥焼却炉の運転を行っている西部下水処理場の見学会を計画した。

2. 見学会の概要

14時に現地集合、16時に現地解散という見学オンリーの会であった。古城戸西部下水処理場長をはじめ下水道局施設課の技術職員の

方々の、説明・案内を戴いた。施設の中でも最新式の流動式下水汚泥焼却炉は新鋭の工場を思わせ仕立であった。出席者は両部会で22名であった。

3. あとがき

説明会の際には、汚泥の処分方法について、コンポスト化、緑農地還元等の資源再利用についての質問、応答があった。見学では、焼却炉とコンパクトに設置された電気集じん機、土壤脱臭施設等新しい技術に接することが出来た。

以上

## 行事レポート◇中四国支部、経工機械両部会合同見学会に参加して

小松 栄一(北九州・経営工学部門)

秋の深まりがますます感じられる、去る9月27(金)・28(土)の両日、中・四国支部、九州支部、経営工学部会、機械部会共催の工場見学と講演会が開催された。

東京などで開催のたびに、経営工学部会から案内のはがきをもらっているものの、まだ一度も参加したことのない私ですが、今回は中国地区で開催ということなので、思い切って出かけてみました。今振り返ってみて、参加して本当によかったと思います。

以下、私見を交えながら報告してみます。

参加者は、地元の中・四国支部28名、九州支部9名、経営工学部会(関東・中部・関西)10名、機械部会(同)5名で、合計52名でした。

主なスケジュールは次のとおり。

- ・9月27日(金) 13時 新幹線新倉敷駅集合  
～16時 安田工業・工場見学  
18時～19時半 懇親会(チサン岡山)
- ・9月28日(土) 9～10時 情報交換会(同)  
～12時 講演会、解散

### ☆安田工業(株)における工場見学

新倉敷駅から貸切りバスで30分、岡山県浅口郡里庄町にある安田工業(株)を訪問した。

この会社は、NHK・経済マガジンの「小さな大企業」で紹介されたことがあるとか、NCやマシニングセンターなどの高精密加工用の工作機械メーカーであり、従業員200名、年商100億のユニークな中堅企業である。

各支部長、部会長から簡単な挨拶の後、安田社長から会社の概要について説明があり、製品のビデオを見た後に、3班に分かれて工場の見学をした。

精密工作機械については門外漢に近い私だったが、幸いにも専門的に詳しい山谷先生と一緒だったので、的確な質問をされるためかより分かり易い説明を受け、とおりのものでなく、有意義な見学になった。

精密仕上げの最後は「きさげ作業」であるとは理解していたが、よくこれだけの職人を教育し、定着させていることに感心した。技能評価表が掲示してあり皆足を止めて見た。

月刊誌「工場管理」にも、「ジャストインタイムに組み入れた5S活動」として評価されているようだが、5Sとしてはもう1つの感じがした。欠品リストの掲示を見て、大企業とはまた違った部品調達の難しさを垣間見た気がした。

同一機種が殆どない、受注生産で年間150台・納期3～5ヶ月の生産なので、40台ぐらいの仕掛りがあり、いわゆる「脚が長い」工程ではあるが、生産管理も大変だと思った。

2Fの設計などの事務所のレイアウトはユニークなものであった。

その他、石定盤、ダグラス機の空気取り入れ口のケーシング加工などが興味深かった。

見学後質疑があったが、その中で安田社長が「アメリカと違ってヨーロッパでは、商社が(教えると)アフターサービスをやって呉れる。良いものは少々値が高くても買って呉れる。」また、他の方の答えだったと思うが、JIT方式の限界について「機械加工は2週以上早くてはいけない。外注はロットでつくる。ということで大体は(うまく)いつているが、最終ネックは(65～70%を作る)外注の協力がどれだけ得られるかです。」などが強く印象に残っております。

この他、「MCの今後の発展性」「工作機と被工作物の温度差と加工精度」「工具の摩耗についての対策は」など、興味深い多くの質疑応答があった。

安田工業(株)での工場見学を終え、途中、岡山県総合流通センターに立ち寄ってから、17時過ぎに宿舎であり、懇親会会場でもあるチサンホテル岡山に到着した。

### ☆懇親会

本多 中・四国支部長の挨拶に続き、原井九州支部長の乾杯によって、定刻18時より懇親会が始められた。

私はなるべく経営工学部会の人を主に、名刺とともに情報交換をと考えて実行した。多くの方からいろいろと有益な話を聞き、こちらの状況を話した。(次ページへつづく)



(行事レポートつき)

私は懇親会が今回の重要なメインテーマだと考えていたが、それは翌日の1時間の情報交換会では、大勢の参加であり合同なので、近況説明位だろうと見ていたからである。

そういう訳で、東京、名古屋、大阪の経営工学の諸先輩と、技術士会のことや経営工学屋(?)としての商売のこと、その他もろもろを立ち話をして歩いたつもりである。

アルコールと立ち話とそれから記憶が写り込みにくいため、今考えても内容を余り覚えていないが、それでも結構良かったと思っている。

九州の飲んべいだから、閉会までお付き合いをしたが、その後は例の如く台風19号もものかわと、カラオケすなっくへと繰り出して翌日午後の岡山見物とともに、一層良い思い出を作り上げたことも報告しておきます。

#### ☆情報交換会

岡山の藤井先生の司会で、まず各支部長・部会長から大要次の様な近況報告があった。

#### ○中・四国支部(代理、稲富先生)

- 来年から技術士試験が広島でも実施されるようになった。
- 地方公共団体職員と技術士との合同セミナーを2月1日広島で、4月12日徳島でそれぞれ開催、盛況であった。
- 3月9日合格者祝賀会、技術交流講演会
- 5月の総会で支部長が村川先生から本多先生に交代。事業委員も交代。新たに編集委員を設けた。
- 5月25～26日、米子市で中電・地下揚水発電所見学。
- 7月20日臨時総会。9月7日事業委員会
- 11月8日、地方公共団体職員と技術士との合同セミナーを山口・小郡グランドホテルで開催予定。県から補助金が出る。技術士が認められてきた結果と思う。
- 12月忘年会。来年合格者祝賀会。広島の技術センターと連絡を取りながら若い人の参加を希望している。

#### ○九州支部(原井支部長)

- 本年5月、支部長を仰せつかった。
- 運営の基本として、“継続は力なり、数は力なり、協調は力なり。”と考える。

- 会員増強を第一に考えている。
- 部門別の部会が発足したので、部会活動を中心に進めたい。
- 来年1月24日、支部としては第4回の、地方公共団体職員と技術士との合同セミナーを、大分地区開催で計画している。

#### ○経営工学部会(木村部会長)

- 機械部会は20数年。経営工学部会は5年だが今回部会長を仰せつかった。
- 偶数月の第1木曜日、午後6時～8時(時々土曜の午後)部会を開催。
- 出席できないときも、状況・意見を書いてはがきを出して欲しい。
- 従来の研究会方式をケーススタディ方式にした。(テーマ例・中小企業の人手不足にどう対応するか)
- 見学は年2回を予定。次は来年1～3月に味の素川崎工場。
- 幹旋委員会・最近(発展途上国から)管理技術の依頼が多い。
- 技術士会では組織論が多いが、情報交換の場にしたいたいと思っている。

#### ○機械部会(倉員部会長)・・・資料で説明。

- 5月に理事・機械部会長を担当。
- 今までは京浜地区が主であったので、地方支部の幹事もお願いした。
- 定例的行事・・・部会例会。部会幹事会。
- 新しい展開・・・各種委員会へ積極的参加。(委員選出のルール明確化)。他部会との連携。機械部会外で活躍の方との連携。部会固有の名簿発行。議事録などを会員宛定例的送付。など。

#### ○質疑(省略)

#### ☆講演会

「岡山空港の国際化による産業振興構想」

講師：岡山経済研究所 主任研究員

大崎 泰正 氏

豊富なデータによってお話頂き、全員熱心に聴講した。質疑の後、定刻過ぎになり閉会した。

中・四国支部の関係者の周到な準備と、献身的なお骨折りによって、楽しく有意義な会合であったことを深く感謝しながら、報告を終わりたいと思います。 以上

# 行事レポート◇創立40周年記念・第18回全国大会に出席して

水上 信照（副支部長・福岡・建設部門）

## 1. はじめに

「科学技術が地球を救う」を大会テーマとして、去る11月29日、創立40周年、第18回全国大会が、東京都において開催された。記念式典には常陸宮正仁親王、同妃両殿下ご臨席の下、谷川寛三科学技術庁長官を始めとする多数の来賓、全国各地より403人の技術士の参加があった。今回は特に創立40周年記念として会長表彰（個人、グループ）論文表彰等があった。また記念講演も牧野昇氏の「90年代の日本はどうなるか」で有益かつユーモアたっぷりのお話で特に印象的であった。

分科会は4部門に分かれ、第2分科会の「地域開発と技術士の役割」では、当支部の原井東男支部長がパネラーとして発表された。

## 2. 記念式典

今回創日本技術士会40周年記念の全国大会で、常陸宮同妃両殿下のご出席、PKO法案に揺れる国会を抜けて出席された谷川科学技術庁長官の出席、過去最大の出席率(403名)等もあって出席者一同深い感銘を受けた。特に常陸宮殿下のお言葉の中に、「科学技術の振興、産業経済の発展、諸外国との技術協力等、日本技術士会の貢献大なるものあり、地球環境問題に今後とも幅広く活躍することを希望します」とあった。

また、長官祝辞では、日本技術士会が昭和59年から代行している、技術士試験業務・登録業務の円滑なる執行について深く感謝するとの言葉が印象的であった。

創立40周年記念大会会長表彰は、個人の部6人、グループの部1組織であった。

<後掲、参照 >

## 3. 分科会

第1分科会 「地球環境と技術士の役割」

第2分科会 「地域開発と技術士の役割」

第3分科会 「国際協力と技術士の役割」

第4分科会「40周年記念懸賞論文発表会」

## ◎第2分科会

大会テーマである「科学技術が地球を救う」  
— 自然と開発の調和と融合を求めて —  
「地球環境問題」として「環日本海」「北海道」「九州ブロック」の地域開発と技術士の実践について報告がなされた。

○基調講演 環日本海経済圏構想 奥村智加男  
ソ連極東地域、中国東北三省、特に三江平原(1,400万ha)について報告がなされた。

○北方圏圏域としての北海道 大原 芳夫

○環日本海圏における地域開発 奥村 俊二  
黒竜江省三江平原開発、吉林省図們江開発、東西センターについての報告があった。

○九州支部での地域開発と技術士 原井東男

“魅力ある技術士会・活力ある技術士会・躍進する技術士会”を目指し、“継続は力なり・数は力なり・協調は力なり”を運営の基本とする、があった。

なお、その具体的事例として下記の4件について概要説明がなされた。

- 中国領事、韓国領事との交流
- JICA、KITAのメンバーとして活躍
- CEクラブ日独技術交流の活動
- 日韓トンネル研究会への参加

特に、原井支部長の報告には、参加者の関心が強かったと思う。

## ◎第4分科会

「土壌菌群の自然浄化による環境改善への足掛り」  
鵜飼 信義

自然に生息するフェノール系代謝機能が強化された土壌細菌群の種菌を使用し、珪酸塩を添加して有機物を腐植・汚泥化するもので、発酵飼料化、家畜ふん尿、食品加工廃水等での実証テスト報告がされた。特に下水処理への応用は従来の活性汚泥法を根本的に見直すものとして興味深いものである。

<次ページにつづく>



＜行事レポート・全国大会 つづき＞

4. 記念講演

「'90年代の日本はどうか」

(株)三菱総研・取締役相談役 牧野 昇

特に21世紀の科学技術の方向は、人間の生命、特にガン対策。バイオ、遺伝子組み替え等の生化学。新エネルギー開発、地熱、プラズマ、太陽エネルギー。等技術士の活躍と今後の研鑽を期待するとの提言があり、ジョークとユーモアたっぷりの話術に会場は笑いが絶えなかったのが特に印象的であった。

5. 懇親会

来賓として宮崎茂一、日本技術士会顧問・元科学技術庁長官が、国会開会中で特にPKO法案審議緊急事態で足止めのため欠席されたのが残念であった。全国大会最大の出席(403名)だけあって盛大であった。

宴終盤に江戸神楽保存会、桜睦会による神輿が登場し、会場を練り回り参加者内からも担ぎ手の参加があり会を盛り上げ、屋台も出て大変楽しいひとときを過ごすことが出来た。大会委員会のご苦労について、過去の第15回大会を思い支部からの参加者と共に、思い出の話を肴に大いに杯を交わしたものである。

6. 宮崎茂一先生への陳情について

大会前日の11月28日、衆議院議員会館209号室に宮崎茂一先生と面接し、「登録即入会」について陳情した。なお、陳情要旨は次のとおり。

- ① 現在技術士合格者4万人、登録者25,161人、会員4,812人の実態である。
- ② 昭和59年より科学技術庁の代行として、試験業務、登録業務を(株)日本技術士会で行っている。技術士の実態把握のためにも登録技術士は会員であることが望ましい。
- ③ 試験監督は技術士会員が責任をもって業務に当る必要がある。一部の試験会場では会員不足のため会員による監督が出来ないとも聞いている。そのためにも登録者は会員であることが急務である。
- ④ 本来代行開始の際に、「登録即入会」を実現して業務移管を行うべきであったと思う。そのため法改正ではなく政令、告示等の方法で是非実現するようお願いする。
- ⑤ 実現の暁には、25,000人の組織力をもった強力な技術集団として、技術士法の目標達成が期待されるものである。以上

創立40周年記念大会会長表彰

創立40周年を記念して、技術士業務に顕著な業績を上げられた下記の6個人、1グループに創立40周年記念大会賞が贈られました。

○芳野 重正

機械部門

明治40年9月生

昭和33年10月入会

○辰己 利喜男

機械部門、近畿支部

大正13年1月生

昭和36年2月入会

○伊東 慶禧

建設部門

大正13年1月生

昭和39年11月入会

○杉田 吉晴

電気・電子部門

大正15年5月生

昭和40年2月入会

○中山 正夫

農業・水産部門

昭和5年1月生

昭和42年4月入会

○芳賀 宏

農業部門、東北支部

昭和2年11月生

昭和56年5月入会

◎ プロジェクトチーム・プレゼンテーション研究会

○前田 秀則

衛生工学部門

昭和5年1月生

58年10月入会

○栞本 幸雄

情報処理部門

昭和4年12月生

53年7月入会

○堀江 正治

衛生工学部門

昭和8年4月生

49年6月入会

○伊藤 昶

建設部門

昭和10年1月生

54年3月入会

○藤森 公彦

応用理学部門

昭和19年9月

56年10月入会

＜行事レポート おわり＞

# ❁ 声の広場 地区活性化だより -8- 福岡地区

福岡地区代表幹事 水上 信照

福岡地区の会員の現状は下表のとおりです。

部 門	支 部 会 員		セ ン タ ー 会 員		部 門	支 部 会 員		セ ン タ ー 会 員	
	正会員	準会員	正会員	準会員		正会員	準会員	正会員	準会員
機械船舶	9	-	7	5	農 業	6	-	14	2
電気電子	8	-	10	-	林 業	2	-	3	-
化 学	2	-	2	-	水 産	1	-	1	1
金 属	1	-	1	-	経営工学	4	-	2	-
資源工学	-	-	2	-	情報処理	-	1	-	1
建 設	43	5	120	23	応用理学	4	-	9	3
水 道	7	1	17	2	合 計	92	9	196	37
衛生工学	5	-	8	-	支部・センター実人員 正員 211+準員 42 = 計 253				

当地区は福岡都市圏在住の会員で、勤務地の福岡市が官公庁、学校、企業の事業所が集中しているため会員数も8地区中最大で、支部会員の47%、センター会員の51%に及んでおり、部門も全部門にわたり、特に建設部門では支部の54%、センターの60%の高率となっています。

支部・センターの平成3年度地区役員の改選は、5月20日信任投票の結果、下表の支部幹事8名、センター理事9名が選出されました。

☆社団法人日本技術士会九州支部 福岡地区役員  
 代表幹事 水上 信照 建設 副支部長  
 幹事 重富 秀雄 経営工学 総務委員長  
 " 政野 光男 建設 試験委員長  
 " 笠木 直行 " 事業委員長  
 " 川崎 迪一 " 第2部会長  
 " 江崎 親教 金 属 第3部会長  
 " 三原 節夫 水 道 第4部会長  
 " 保澤 與 農 業 第5部会長

☆九州地方技術士センター 福岡地区役員  
 理事 矢野 友厚 建設 副会長・研修委員長  
 " 斎藤 清美 衛生工学 活性化委員長  
 " 町田 貞徳 電気 受験対策委員長  
 " 小川 康夫 建設 総務副委員長

理事 前田 剛志 建設 受験対策副委員長  
 " 斎藤 健男 "  
 " 中島 義明 "  
 " 是石 俊之 "  
 " 久保田信一 "

福岡地区会員各位の支部・センターの活性化対策、要望、意見等を積極的に上記役員に連絡されることを希望します。

- 第1回役員会(平成3年6月1日)
  - 第2回役員会(平成3年8月24日)
- において本年度の活動方針を一応決定しました。

- (1) 福岡地区は支部の地元につき支部活動との重複を避け、積極的に支部活動に参画する。
- (2) 地区総会は、最小限年1回は行う。地区会員の意見を積極的に吸い上げること。
- (3) 当面地区役員の結束を図るため、2ヶ月に1度会合を持つこと。偶数月第4土曜日とする。
- (4) 会員増強対策として、水上、笠木、重富、久保田、是石等が協議し全会員の協力を得て推進することとする。
- (5) 地区青壮年部会を結成する。発起人、小川、前田、斎藤(清)、真鍋、棚町の5名とする。 <次ページにつづく>



＜地区活性化だより－福岡 つづき＞  
○ 第3回役員会（平成3年10月26日）で、  
下記行事予定と運動方針を決定しました。

- ・青壮年部第1回総会 本年度中に開催。
- ・第4回役員会 平成4年2月3日(月)  
於 博多第1ホテル
- ・地区全員総会 平成4年3月6日(金)  
於 福岡商工会議所

／ なお、青壮年部会の活動として

- (1) 平成4年2月21日予定の合格祝賀会に於いて、新人の入会を積極的に勧誘すること。
- (2) 地区全員総会の招集、運営を担当する。

以上地区活性化の具体的活動を始めることにしました。

＜地区活性化だより おわり＞



## 随想



## ◇ CEクラブ最近の活動について

— 「長崎日独産業交流協会（NDIS）」の設立

川野 宏平（農業 部門）

NDIS総会は11月11日の午後2時から3時30分まで開催されました。来賓として長崎県知事、長崎市長をはじめドイツ連邦共和国ノルトライン・ヴェストファーレン州の経済省次官ハルトムート・クレブスさんほか12名の方々出席し、日本側の関係者も含めて約100名が参集しました。わがCEクラブ会員も10名出席しまして面目躍如たるものがありました(?)。この総会の様子を翌12日の長崎新聞の朝刊は次のように報じております。

「ノ州企業と交流拡大へ」

「日独産業協会を設立」

本県とノルトライン・ベストファーレン州の企業との産業交流などを目的とした「長崎日独産業交流協会」（NDIS）の発会式が11日長崎市内であった。既に同州の企業2社の県内進出の話が進められており、両地域の経済・技術の交流拡大が期待される。発会式には同州からクレブス経済省次官、シュリーパー経済振興公社理事長ら13名、本県側から協会設立準備委員長の中部長次郎県商工会議所連合会長、同副委員長の黒瀬正行ナガサキ・インタービジネスプラザ顧問ら約100人が出席、経過報告の後、事業計画として、

- ①ドイツ企業の県への誘致
  - ②ドイツとの交流提携事業の推進や情報交換
  - ③同州のエッセン大学から講師を招いてのセミナー開催
- など決めた。

実務はナガサキ・ジャーマンプロジェクト(株)が担当し、協会は営利活動をしないうことにした。役員には、会長に中部会長、副会長に、

黒瀬顧問ら4人、理事21人など決めた。名誉会長として高田知事が就任。ドイツ側代表としてクレブス次官が「中・長期的視野の経済交流の外、文化面での理解と協力も高めてゆきたい」とあいさつ、式後同州の経済環境について同次官らが講演した。

と、一面トップで報じていますが、CEクラブ会員もこの中にあって技術部門を担当し、活動しているところです。

総会当日の夜は、高田長崎県知事や副知事、長崎市役所関係者をはじめ、ドイツ側は来崎された13名の方々全員、それに協会員のほぼ全員が出席して懇親会を開催しました。和やかで、国際色に富んだ有益なパーティであったと思っています。このパーティで特筆したいことは、ドイツ側が私ども日本側を招待して下さったのです。本来なら日本側がドイツの皆様をご招待するところなのですが、……ドイツの本交流に対する熱意がひしひしと伝わって来るようです。

CEクラブは本産業交流協会にも入会しますが、実務として活動するのは、経済交流を具体的に推進するため輸出入を始めとして、相互新技術の斡旋や新規事業の企画並びに運営を行うジャーマン・プロジェクト(株)(NGP)の中で活動します。NGPを支援する組織としては、CEクラブの外にテクノ財団、NIP、地元大学、地元大企業、ジェットロ、金融機関、商工会議所等です。

＜次ページに続く＞

(随想 つづき)

次にドイツとの技術交流の経緯について概要を申し上げますと、2年前にドイツ連邦共和国ニーダーザクセン州オスナブリュック市地域経済開発センター(ECOS)の代表者ミームケンさんが長崎市に黒瀬技術士を訪問したことに始まります。

平成2年9月には長崎県異業種技術交流協会の国際交流研究グループがドイツのNRW州のエッセン市を訪問し、平成3年2月にはエッセン市長により、産業デザインの世界的権威のレンジェル博士が長崎に派遣され講演し、高田知事のメッセージをおくる等次第に交流は深まりましたが、勿論技術士プロジェクトチーム・CEクラブの会員もこの活動に参加して、昨年9月には6名が、また本年7月には2名がドイツを訪問し、エッセン市、ポーハム市、ドルトムント市、オスナブリュック市等で、土木建設分野や医療機器分野の協議を重ねるなど、技術分野で積極的な活動をしたのです。

このような動きの中であって、エッセン市は本年7月1日に「経済振興会社(AMT Fur Wirtschafts Forderung)」を設立して日本との産業交流を積極的に推進する態勢を整えました。

日本側もこれに答えるためにも受皿づくりが必要となり、今回の「長崎日独産業交流協会」設立の運びとなった次第であります。

基礎的技術が日本より進んでいるドイツとの技術交流は、私共日本人にとって有益であり、今日のハイテク時代・情報化社会にあって、世界はひとつであるという考えのもとに積極的に海外との技術交流を行うことが肝要かと思ひ、技術士の使命は益々大でありましょう。「思案するだけではなく、行動に移すことである。行動すれば情報を得て、良い結果が生まれる」このように思う昨今であります。

ドイツ代表のクレブス次官が申し出ておりましたように、経済交流だけでなく文化面での理解と協力も高めてゆくことが大切だとも思っています。外国へ旅を重ねる毎に文化面の収穫も多くなることでしょう。機会があればドイツ旅行も行きたい。そんな思いであります。

以上、CEクラブ活動の一端を申し上げましたが、今後共技術士会の皆様のご支援をお願い申し上げて終わりいたします。

<随筆 おわり>

## ◎ 新村支律孫召介 ◎

### 快適環境 (アメニティ)

近年、余暇時間の増大、ライフスタイルの変化、価値観の多様化等に伴い、これまでの量の確保から質の充実へと考え方が変わり、人間としてより充実した生き方、快適な環境が求められるようになってきた。

公園緑地計画の立場から、快適環境(アメニティ: amenity, 快適性、快適な環境、住み心地のよさ)とは、ごく普通の一般の人々が「いいなあ」と感じてくれる、さらには感動してくれる環境を指すものと考えている。

快適環境を創出するためには、それぞれの場の環境に応じて、自然・美・機能の三つの要素が三位一体となるように計画することが大切である。

- 1) 自然: 自然と人間との調和ある均衡。その自然が保有している許容限界を明確に認知し、そこに人間がどの程度適応できるか否かを把握する。
- 2) 美: 人間の感性に基づいた美的空間構成。調和と多様の統一を図る。
- 3) 機能: ①人間の行動形態や心理に即した空間構成。  
②ヒューマンスケールに基づく空間構成。  
③適切な原単位(利用に適した広がり、容量)をもつ空間構成。

こうした視点に立ち、場のもっている雰囲気や性格を生かしつつ、空間的魅力を付加していくことにより、個性豊かな快適環境が創出できるものとする。

(福岡/建設 (株)ゼン環境設計 棚町 修一)

時のことば

CS経営 Customer Satisfaction Management

日本能率協会グループの提唱するCS経営とは、「お客様の満足を組織的に創りつづける経営」のことをいいます。今までにない新しい経営思想と革新方法を取り入れようというものです。

CS経営が目指すものは、①お客さま満足度を指標とする経営 ②第一線が主体的に判断し実行する経営 ③管理者が優れたコミュニケーションで第一線を支える経営 と要約できる。

◎ 業態別 高満足者ランキング (総合満足度は7段階評価のうち上位2項目の回答者の%)

業 態	総合満足度	回答人数	業 態	総合満足度	回答人数
乗 用 車	52.9%	923	郵 便 局	24.9%	1125
宅 配 便	30.4	2184	生 命 保 険	24.5	2353
航 空 会 社	29.8	950	ファーストフード	22.4	2491
女性化粧品(メイク)	29.7	1443	ス ー パ ー	20.7	2464
百 貨 店	27.8	3373	鉄道・地下鉄	20.6	3293
遊 園 地	26.9	1459	コンビニストア	16.3	1870
銀 行	26.8	3026	ファミリーレストラン	16.1	2145
カ ー ド	26.3	1453	市・区役所	14.0	1957
新 幹 線	25.5	1305	・本年7月1日、(社)日本能率協会発表		



会員ニュース



☆(社)日本技術士会(九州支部)入・退会

(区分)	(地区)	(氏名)	(職種)
入会	福岡	古谷 博司	建設
"	"	菊山 紀彦	金属
"	"	佐藤 堯	建設
"	"	小松 路代	応用理学
"	宮崎	加藤 裕也	建設
"	福岡	田口 和久	"
退会	熊本	持田 勝	水道
"	福岡	大串 宗太	建設
"	北九州	長澤 逸郎	経営工学
"	"	富樫 茂己	建設
"	長崎	永尾 嘉孝	農業
"	宮崎	稲葉 一二	建設

☆九州地方技術士センター入・退会

(区分)	(地区)	(氏名)	(職種)
入会	福岡	小旗 明雄	建設
"	北九州	廣田 兼男	水道
"	"	岸田 徳康	"
"	福岡	今村 晋作	林業
"	"	瀧口 克己	建設
"	"	久家 悟	"
"	"	古賀 徳治	"
"	"	松岡 生磨	農業
"	宮崎	中村 徳孫	林業
"	"	加藤 裕也	建設
"	福岡	江頭 清己	"
"	北九州	海部 昌治	金属
退会	宮崎	稲葉 一二	建設
"	熊本	持田 勝	水道
"	福岡	中川 茂幸	建設
"	"	河野 通彦	電気・電子

<次ページへつづく>



＜会員ニュース つづき＞  
 ☆九州地方技術士センター入・退会(つづき)

(区分)	(地区)	(氏名)	(振替)
退会	大分	赤池 雅弘	水道
"	長崎	野村 幸平	応用理学
"	熊本	徳永 康德	建設
"	福岡	山下 眞二	"
"	"	中平 政純	"
"	鹿児島	藤山 純隆	"
"	福岡	宮本 晴雄	"
"	"	山内 健利	"

ー以上、平成3年10月1日～11月25日  
 受付順、敬称略ー

◇会誌”技術士”最近号の主要目次◇

☆10月号

- ・提言 組織強化への提言2つ／稲松 敏夫
- ・私の技術士業務  
 コンサルタントはソフト産業の代表  
 ／玉井 丈生
- ・研修のページ  
 閉鎖系でのフライアッシュから  
 ゼオライトの合成法 ／岡田 豊

☆11月号

- ・私の技術士業務  
 福島県との3つの関わり／高橋 博良
- ・研修のページ  
 エントロピーの増大とエコロジーと  
 技術士業務 ／樺山 資治  
 キューバ共和国での技術協力事情  
 ／石川 努  
 TQC／TPM活動の比較考察  
 ／小沼 稔

☆11月臨時増刊号

| 日本技術士会40年史 |  
 35年史発刊後5年間の歩み

☆12月号

- ・提言 業務委員を辞任して／小川 和夫
- ・私の技術士業務  
 技術士の夢日記 ／石井 泰造  
 生産技術者がみた海外  
 コンサルタント業務 ／稲垣 元紀

☆会員勤務先(住所)および連絡先変更

1. 園田 豊實 (水道)  
 勤務先 共立設計(株)福岡出張所長
2. 井内 祥人 (林業)  
 勤務先 〒892 鹿児島市山下町14-50  
 鹿児島県林務水産部森林保全課  
 TEL (0992)22-7432
3. 綾部 弘一 (建設)  
 連絡先 〒880-01 宮崎市大字芳土3701-59  
 TEL (0985)39-3330
4. 松本 隆茂 (建設)  
 連絡先 〒880 宮崎市大字田吉字中ノ又  
 5884 TEL (0985)53-0028
5. 田中 義人 (建設)  
 連絡先 〒891-01 鹿児島市山田町2582-50

＜会員ニュース おわり＞

★投稿を募る★

技術研究論文・技術士の主張・賛助会  
 員会社の紹介など、技術的なことは勿論  
 一般的なことでも結構です。積極的な皆  
 さんの投稿をお待ちしております。  
 (200字詰め原稿用紙2～3枚程度を目  
 安にして下さい。 支部事務局宛)

✍ 編集後記 📖

いつものこと乍ら、師走ともなると巷はジ  
 ングルベルと歳末大売出し、年賀状書きを気  
 にしながら何回目かの忘年会へ……………。  
 ”技術士だより”3年目の年もかくして、  
 数々のミスプリントなどを悔やみながら暮れ  
 てゆく。皆さんお揃いで良いお年を!! (小)

発行：(社)日本技術士会・九州支部  
 九州地方技術士センター  
 〒810 福岡市中央区大名1丁目  
 12-61 新天ビル402  
 ☎(092)771-9534  
 編集：九州支部・総務委員会